

おおぞら

第18号

・発行
安来地区保護司会

・事務局
やすぎ更生保護サポートセンター
広瀬町広瀬802
TEL (0854) 26-4181
題字 佐々木 實



安来港 語臣猪麻呂の毘売像

仕事と 住居等の確保



松江保護観察所長
國府 実

七割が再犯時に無職であったことから、協力事業主の方々のご協力やハローワークと連携した刑務所出所者等就労支援事業を強化しています。

住居等の確保については、特に高齢・障害を持つ受刑者で行き場のない人には、矯正施設・島根県域生活定着支援センターと連携して、釈放後すぐに、福祉サービスが受けられるようにする特別調整という施策を実施しています。

安来地区保護司会の皆様には、昼夜を問わず更生保護事業の推進に格別の御支援・ご協力を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。また、本年七月には安来更生保護サポートセンターの開所式が行われました。企画調整保護司のご尽力により、安来市における更生保護の拠点として積極的にその役割を果たしていただいていることにつきまして、敬意と感謝を申し上げます。

さて、保護観察所では再犯防止につながる「仕事の確保」と「社会での居場所づくり」に積極的に取り組んでいるところです。

仕事に関しては、二回以上刑務所に入所した人の約七割が再犯時に無職であったことから、協力事業主の方々のご協力やハローワークと連携した刑務所出所者等就労支援事業を強化しています。

住居等の確保については、特に高齢・障害を持つ受刑者で行き場のない人には、矯正施設・島根県域生活定着支援センターと連携して、釈放後すぐに、福祉サービスが受けられるようにする特別調整という施策を実施しています。

しかし、人は一人で生きていけません。家族・親族等と絆を失っている人たちに対しては、やはり地域に住む人々の暖かい見守りが必要で、更生を決意した人に対して、同じ人間であるという姿勢を持って接していただくことで、互いに暮らしやすい豊かな町となっていくことでしょう。

地域の皆様のご理解を得ながら、安来地区保護司会活動がさらに充実発展し、更生保護が地域に深く根ざして行きますことを祈念申し上げます。

保護司会の活動について



安来地区保護司会
会長 秋間 近夫

本年の五月、安来地区保護司会の会長を近藤佳郎前会長より引き継ぎましたが、改めて責任の重さを感じています。関係機関、団体の皆様のご協力とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

七月には「社明大会」と、三年越しの念願であった「サポートセンター開所」との大きな行事が続きました。特にサポートセンターの常設はこれまでの安来地区保護司会の活動が、保護司にとっても地域にとっても、大きな転換期を迎えると感じています。私自身、平成九年に保護司の任命を受けて以来、保護観察対象者と接する度に、社会的にこれほど大切に負担感の大きい仕事、個々の保護司の自宅を事務所として行われていることに少なからず疑問を持つ反面、日本の安全で安心な国柄であるが故の特別な制度として成り立っていることに、感心もしてい

ました。言い方を換えれば個々の保護司の力量によって、保護観察が行われているといっても過言ではないと思います。

月刊『更生保護』九月月号にサポートセンターの特集が組まれていますが、これまで知らなかった先進事例を拝見すればするほど、これが本来の保護司活動のありべき姿ではないかと強く感銘を受けています。

すでに設置されている先進地のアンケートでは、「設置に満足している、保護司会の活性化が進んだ、犯罪予防活動や地域との連携が強化された」等、すべて好評の結果となっております。

安来地区保護司会としても、今後速やかに先進地に仲間入りができるよう、次のような点を中心に活動を展開したいと考えています。

- 一、常設事務所として学校及び関係団体との連携の強化
- 二、新任保護司がサポートセンターを利用し保護観察対象者と面接を行う際の企画調整保護司からの助言体制の構築
- 三、自宅が家庭の事情で面接に使用できなくなった場合や保護司候補者が自宅での面接を家族から反対され、任命に支障が出る場合の面接場所の提供

やさぎ更生保護サポートセンター開所式

七月二十四日（金）、広島中央交流センターを会場として、来賓関係者、保護司会会員合わせて五十人の参列により行いました。

はじめに秋間会長があいさつに立ち、サポートセンター開設への取り組みやその活用について抱負を述べました。続いて國府松江保護観察所長、近藤安来市長、坂本島根県保護司会連合会会長から、安来市における更生保護活動の一層の充実を期待する励ましの言葉をいただきました。

閉式後はサポートセンターへ移動し、事務室や臨時に使用可能な会議室、相談室などを来賓関係者に案内して日程を終えました。ご多用の中ご参会いただきました来賓の皆様にご感謝申し上げます。

更生保護サポートセンター設置の経緯
更生保護サポートセンターは、近年の保護観察対象者の問題が複雑・多様化する中で、個々の保護司だけでは処遇が困難な場合も多く、地域の関係機関・団体との一層の連携を図る必要が生じていること。また

他方で、体感治安の悪化等を背景として、地域の安全・安心の実現のため、保護司活動の充実を求める声が高まっていることなどを背景に、平成二十年度から全国の地区保護司会単位で設置が進められています。

島根県では平成二十三年度の松江地区から順次開設が進み、安来地区は九地区中七番目の開設となりました。

やさぎ更生保護サポートセンター開設に当たっては、松江保護観察所のご指導を頂きながら平成二十五年度から準備を始めました。設置場所の決定には紆余曲折がありましたが、JALまねね安来地区本部様のご理解ご協力の下、JALまねね広瀬支店二階の一室をお借り

改めまして厚くお礼申し上げます。

更生保護サポートセンターの機能
更生保護サポートセンターは、地域における更生保護の拠点として、次のような機能を持っています。

（1）保護司の行う処遇活動の支援。
（2）地域の様々な関係機関・団体との連携推進。
（3）更生保護関係団体や警察署、自治体担当課や教育委員会、学校関係者などとの情報交換や合同研修。
（4）地域に根ざした犯罪・非行予防活動の推進。
（5）更生保護に関する地域への情報発信や地域住民からの相談への対応、各種啓発セミナーの企画・運営。
（6）保護司会の運営拠点、役員会や専門部会の会場。
安来地区においても、こうした機能を發揮し、地域から期待されるサポートセンターを目指して参ります。
(事務局)



第六十五回 社明大会



七月三日(金)、広瀬中央交流センターで、『第六十五回「社会を明るくする運動」平成二十七年「青少年の非行・被害防止全国強調月間」安来市推進大会』を開催しました。

この大会は毎年七月が「社会を明るくする運動」強調月間と位置づけられることなどを踏まえて、犯罪や非行のないまちづくりを推進するために安来市推進委員会を組織して毎年この時期に開催しています。

当日は二百五十人以上の参加があり、秋間会長のあいさつに続き、内閣総理大臣のメッセージや県知事・県警本部長・県教育長連名発信の青少年非行・被害防止メッセージを受信した近藤安来市長(大会実施委員長)があいさつし、来賓の國府松江保護観察所長から祝辞を頂戴しました。

さらに、前年の「社会を明るくする運動」作文コンテストにおける受賞作品二点を、それぞれの作者・勝部真由さん(安来第二中学校卒業生)、近藤優妃さん(赤江小学校卒業生)が発表しました。

また、基調講演では日本司法支援センター法テラス島根法律事務所の松本信乃弁護士を講師に迎えて、「非行・触法少年と地域社会」と題してお話を頂き、少年保護事件の傾向や少年非行に現れる「地域の形」を紹介しながら、地域社会における課題について意識の共有を図り、日程の最後に大会宣言を採択して閉会しました。

大会開催に際して安来地区保護司会の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。
(大会実施委員会事務局)



第六十五回「社会を明るくする運動」作文コンテストを小中学校に募集したところ、小学校八校二十一作品、中学校四校十一作品の応募がありました。県推進委員会で審査の結果、中学校の部で、広瀬中学校の喜多川真友さんの作品が島根県保護司会連合会長賞に、伯太中学校の門脇菜々美さんが島根県BBS連盟会長賞にそれぞれ選ばれました。おめでとうございませう。

中学生の部優秀作品

島根県保護司会連合会長賞

話すこと



安来市立 広瀬中学校3年 喜多川真友

「LINEでは話すのに、学校では全然しゃべらんない。」

皆さんはこれをきいてどう思いますか。普段皆さんは、友達と直接言葉やあいさつを交わっていますか。

今、中学生で無料通話アプリを使っている人はたくさんいます。そのおかげで新しい友達も増え、普段学校では会えない友達と話すこともできます。私自身、利用して便利だと感じたことはたくさんあります。そんな中、私が一番問題だと思うのが「人と直接コミュニケーションをとる機会が減る」ということです。なぜ、同級生で同じ学校で勉強しているにもかかわらず、ネットの中だけで話せないなどということになるのでしょうか。

「LINEでAさんと話して、前より仲よくなった。」

ある日、一人の友達が私に、こんな話をしてくれました。

「どんな話をしたの。」
「勉強とか、いろんな話をしたよ。意外によく話をきいてくれて話しやすいかったよ。」

でも私は、その二人が学校で話しているのをあまり見かけません。原因は「直接話すことが怖い」という気持ちからではないでしょうか。文字での会話は相手の顔が見えませんが、顔をあわせるのが気まづいときでも、相手の顔をみずに、自分の気持ちを簡単に伝えることができます。

私は小学校高学年の頃、母に注意されたことがあります。

「早口だとか何をいっているか聞きとりにくいよ。お母さんだったらいいけど、友達や、初対面の人には、きつい印象をもたれてしまうかもしれんよ。もう少し優しく、ゆっくりしゃべった方がいい。」と。

そう言われたことで、私は改めて自分の話し方、聞き方を見つめ直したことがあります。周りの様子を見て、反応を確かめながら会話をするようになりました。相手がどんな気持ちで話しているのか、考えながら話を聞くようになりました。直接会話をすることによって、コミュニケーションをとる力を高めてくれるし、自分自身を成長させてくれることだと思っています。

それに、たくさんの人と話すと、将来私たちが社会人になった時、とても重要になっていきます。ほとんどの仕事は、人と直接接することが多いし、一人でやっていけないものはありません。これから私達は、もっといろんな人と出会い、接し、助け合っていくかなければなりません。今、人と話すことをさけるということは、この先、人間関係がうまくいかない原因の一つになるかもしれないし、

話すことが余計に怖くなってしまいかもしれません。人付き合いがうまくいかない。このことがきっかけでなかなか周りに馴染めなかったり、深刻化すれば、今大きな問題になっている「自殺」にもつながりかねないと思うのです。

誰でも必ず一度は経験したことがある気持ちに、「直接会話をすることは楽しい」という気持ちがあるのではないのでしょうか。わからない人は、直接会話をすればきっとわかるはずですよ。そして、相手の口から言われた言葉は、気持ちごとにも伝わってきます。

誕生日に言われた「おめでとう。」大会の前に言われた「絶対できるよ。頑張って。」賞をもらったときに言われた「すごいね。」仕事を手伝ったときに言われた「ありがとう。」これらの言葉は、私の心の中でずっと残っています。家族や友達の手伝いと共々。

文字の言葉は一生残り、口で言われた言葉は瞬間にすぎないかもしれませんが、本当に心に残るのは、文字が一瞬、直接言われた言葉は一生です。ずっと響いていきます。

直接会話をすることとは、自分を成長させてくれるし、たくさん思い出してくれます。私の周りには、いつも声をかけてくれる家族や親戚、近所の人たち。その中で、これから会えなくなるかもしれない大事な仲間です。たくさん思い出さなければ、今、会話ができてこの時間を私は大切に過ごしていきたいと思っています。

みなさんも人と直接コミュニケーションをとることを大切に、たくさんのお話を楽しんでみませんか。そして笑顔のあふれる世界になればと思います。

島根県BBS連盟会長賞

言葉の重み



安来市立 伯太中学校1年 門脇菜々美

「うわっキモッ」「うわっダサ」と言った言葉が最近身近な会話の中でたくさん聞こえてくるようになってきました。しかし、その言葉の使い方は正しいのでしょうか。まず私の身近にあった会話についてです。

ある日の給食が終わってからのことでした。そこには給食をたべている人、本を読んでいる人、女子二人で楽しくしゃべっている人がいました。二人でしゃべっていた子達は盛りあがり過ぎてしまいました。その時、給食を食べていた子が「○○ちゃん、うるさい。静かにして。」と言いました。周りではその様子を見ていた人達も「その通りだ。」という感じでうなずいていました。そこで終われば、問題はなかったのですが、その後続けて「まじウザイから、死んでほしいくらい」と言ったのです。多分、その子は冗談で言ったことでしょう。でもそれと言われた子はすぐに「あ、ごめん」といいましたが、本心では泣きかかったのだと思います。そんな時、本を読んでいた人は私

達には関係ないというような顔でした。

テレビでいじめのニュースが流れますが、いじめが原因で自殺という選択をってしまった人達は態度でもですが、言葉でも追い詰められていたのではないのでしょうか。

言葉は、使い方や間違えれば凶器に変わり、よい使い方をすれば人の心をいやすものにもなります。例えば「うるさいから本当に黙って。ウザイ。死んでほしいくらい」と言われれば誰でもいやな気持ちになります。逆に「今、食事をしているところだから、もう少し静かにしてもらってもいい？」など自分の思いが伝わる表現ができればいいと思いませんか？

私は自分が考えたことをすくなく表現できることはすばらしいことだと思います。しかしすぐに表現すると、こんなことを言われたらいやなのではないかということを考える時間が短くなってしまい、自分が言った言葉に責任が持てなくなるのかもしれない。また、責任を持たずに使うから相手がいやな気持ちになる言葉を使うのかもかもしれません。

悪口を言ったその言葉で傷つく人がいます。言葉は使い方や間違えれば、時にはその人を追い詰めてしまったり、命をうばってしまうこともあります。だから、責任ある言葉を使うためにはその言葉の意味をじっくり考えて使う必要があります。周りで使われているからといっ

て使っているという訳ではありません。自分がその言葉をいつたら相手がいやな気持ちにさせないか、自分は自分の使った言葉に責任をちゃんと持てるのかということを中心に考えながら言葉を選ぶことが重要なのだと改めて思いました。

皆さんは言葉という言葉を知っていますか。言葉とは古代日本において言葉に宿ると信じられていた不思議な力のことです。よい言葉を発すれば良いことが起こり、不吉な言葉を発すれば凶事が起こるとされてきました。私は人間の心は言葉に敏感なのだと思えます。ほめられれば、気持ちも明るく、前向きになれると思えます。ですが、叱られたり、否定されたりすれば気持ちも沈み、後ろ向きになってしまいます。だから私は自分の伝えたい言葉の中に人はいやな気持ちにさせる言葉が混ざっていないかを確かめて使っていきたいと思えます。そのためには人生の先はいとの会話をもちともちとしたり、本を読んでも自分の使える言葉を増やしたりすることも大事ですが、一番大切なのは相手の気持ちを考え、言葉を使っていくことです。そして、いつも言葉に関心を持っていることが大事だと思います。



SST研修に参加して

保護司 安部 良江

本年一月三十一日から二月一日まで、広島市で日本更生保護会主催の中国ブロック「保護司のためのSST研修」が開催され参加しました。

「SST」は私が初めて聞く言葉でしたが、教育現場や更生施設ではすでに取り入れられ活用されているようです。

SSTとは「社会生活技能訓練」の略で社会生活に必要なルールや技能を学習し、再発のチャンスを得ることが出来るよう対人行動能力（生活の中で人に働きかけて、自分の目的を果たし、相手から期待する反応を引き出す能力）を伸ばすように支援する方法です。保護観察対象者の「生活する力」と「自信」を増すことを目的としています。

これは、保護司が当事者の希望実現に必要な対人行動能力を面接の中で練習していく方法のひとつです。また、当事者に応用出来る考え方や行動の仕方を教えて、本人の自らの能力を引き出し、成長させて行

くためのものです。対人状況が把握でき、問題の改善に向けて支援しやすく、当事者と保護司のコミュニケーションが取りやすくなる次のような「コインマップ」を学びました。

コインマップとは、五百円玉、百円玉、五十円玉、十円玉、五円玉、一円玉を準備し、本人と親、友人、職場の人々の関わりをマップ的に置いてもらい、理由を聞くことで交友関係や親子関係を知らることができて、抱えている問題点が見えてくるのです。

今回の研修はグループで演習も交えながら二日間勉強しましたが、他県の保護司さん方の苦労話もたくさん聞くことができました。問題を抱える若者たちとの寝食、更生支援グループ、NPO法人の代表女性保護司さんのドラマの世界のようなお話が衝撃的でした。対象者と向き合う時、真剣に考えて行かなければならない、身の引き締まる研修でした。



更女だより

更生保護女性会とは？

更生保護は、法務省の所管する公的な保護観察所等と、民間組織として「更生保護女性会」「BBS会」「更生保護法人」「保護司会」のボランティア組織があります。

更生保護女性会は、非行や犯罪に陥った人たちが、再び社会の一員として立ち直るのを助けるため、昭和三十年代後半より各地で結成され始めました。

特に地域に基盤をもつ更生保護女性会は、女性の持つあたたかさ、細やかさを活かし、人間愛をもって、心豊かに生きられる明るい社会づくりのために活動しています。

どなたでも自由に参加でき、立ち直りの支援とともに、次世代を担う青少年の健全な成長を願って、非行防止、健全育成並びに地域の子育て支援を関係団体と連携しながら進めています。

安来地区

児童養護施設 安来学園での研修

安来地区更生保護女性会
山崎 光恵

私たちの主な活動は、中学校への図書券贈呈と、研修会を兼ねた総会です。

今年度、図書券は安来三中に贈りました。

研修会は、赤江地区の安来学園を訪問しました。

明るく環境の良い所で、子どもたちが、温かく守られている事を知り、安心しました。それにしても、親からの虐待に苦しんでいる子が増えている現実を知り、心を痛めた研修でした。



伯太地区

保育所の芋掘り

伯太地区更生保護女性会
安田地区代表 為国 角

安田地区の会員は現在18人。10年余り、保育所の芋苗植え、芋掘り、窓の掃除などのお手伝いをしています。植え方を教えたり、一緒に掘る前の準備をします。最初は土に触るのを躊躇したりする子もいますが、元気に掘り上げると、大きな芋に歓声をあげ、賑やかな一時です。そして、自分の掘った芋を自慢げに持ち帰る姿に私達もうれしくなります。これからもこの触れ合いを続けたいと思っています。



顕彰式典で受彰

十一月十七日、松江市総合福祉センターで平成二十七年年度島根県更生保護顕彰式典が開催され、次の方々が受彰されました。

- 藍綬褒章
 - 長妻 久良
- 法務大臣表彰
 - 岩崎 哲久
- 全国保護司連盟理事長表彰
 - 秋間 近夫
- 中国地方更生保護委員会 委員長表彰
 - 池上 幸秀
- 中国地方保護司連盟 会長表彰
 - 今井 昭紀
 - 遠藤 史則
 - 安達 紘二
 - 倉本 洋子
- 松江保護観察所長表彰
 - 安達 紘二
 - 矢田 博美
- 島根県保護司会連合会 会長表彰
 - 安達 紀雄
 - 少林 浩道
 - 藤原 常義
 - 細田美佐子

せせらぎ

保護司 上田 眞實

去る五月三十一日、任期満了にて近藤佳郎前会長が退任されました。昨春秋には、前会長を中心に、第二十三回県更生保護大会を市民会館を会場として盛大に開催しました。

また、サポートセンターの設置には多大なご尽力を頂きました。県の役員会へ出掛けると他の地区の役員から、安来地区はいつ頃開設するのかわかると声がかかるようになり、市側へ相談しても市役所の建替計画が出されており対応するのは難しいとの事であり、自ら空施設を探し歩かれたそう

です。借賃が安く駐車場のありと探して廻ったところで、最後にはJAやすぎ広瀬支所の役員室が空いていることが分かりました。県農協となる直前頃のことです。秋間現会長も当時理事に在任中であり、話がまとまるのが早かったようです。

現在、事務用パソコン三台も設置され、他にも事務用機器が取り揃えてあります。今後、このセンターを皆さんが活用していくことが前会長のご苦勞に報いることになると思います。会長在任中のご苦勞に対し紙面をお借りしお礼を申し上げます。

第十五回「アゲいよん」カップ大会

この大会は平成十三年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で、安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。今年も安来市周辺のスポーツ少年団がたくさん集まり、熱戦が展開されました。

○野球大会

十月二十四日、あらえっさスタジアムで開会式が行われました。野坂啓二大会長のあいさつ、田中壽美夫保護司会副会長の激励のあいさつの後、二十八チームが七会場に分かれて試合を行いました。今年度から、六年生の選抜の部と五年生以下による新人の部に分かれて実施されました。その結果、選抜の部の優勝は、大田市選抜、準優勝は安来選抜Aでした。また、新人の部の優勝は、社日ドジョーズと島田ビクトリーズ、準優勝は安来ゴールドスターズと多岐ブレイブホークスでカップとメダルが授与されました。地元安来市のチームが健闘しました。

○バレーボール大会

十月十二日、市民体育館と第三中学校体育館を会場に行われました。大会長、教育長のあいさつ、秋間近夫保護司会会長の激励のあいさつの後、二十チームが二会場に分かれて試合が始まりました。予選リンク、決勝トーナメントともにフルセットの熱戦が数多く繰り広げられました。

その結果、優勝は美保関JVC、準優勝は就将少女バレースポーツ少年団、第三位は竜之口JVCと横井スポーツ少年団でした。



○剣道大会

十一月二十三日、安来市民体育館で開催されました。



安来地区保護司会役員名簿

(平成27年11月1日現在)

部会名簿

(平成27年11月1日現在)

会長	秋間 近夫 (伯太)	総務部会	秋間 近夫 田中壽美夫
副会長	田中壽美夫 (安来)	岩田 拓郎 長妻 久良	岩田 拓郎 長妻 久良
常任理事	岩田 拓郎 (広瀬)	村社 征利 榎野 光範	村社 征利 榎野 光範
理事	村社 征利 (安来)	福田 瑞枝 小村 修司	福田 瑞枝 小村 修司
理事	榎野 光範 (安来)	少林 浩道	少林 浩道
理事	岩崎 哲久 (安来)	研修部会	岩崎 哲久 田中 篤美
理事	山崎 武道 (伯太)	岩崎 哲久 田中 篤美	岩崎 哲久 田中 篤美
理事	池上 幸秀 (広瀬)	安達 紀雄 仙田 芳弘	安達 紀雄 仙田 芳弘
理事 (事務局長)	小村 修司 (安来)	原 玉子 永島 均	原 玉子 永島 均
事務局長補佐	少林 浩道 (広瀬)	小池 清水 葉田 茂美	小池 清水 葉田 茂美
理事 (協会担当)	福田 瑞枝 (安来)	犯罪予防部会	上田 眞實 藤原 常義
監事	矢田 博美 (安来)	細田美佐子 今井 昭紀	細田美佐子 今井 昭紀
"	安部 良江 (広瀬)	柏 眞知子 安部 良江	柏 眞知子 安部 良江
"	"	岩崎美枝子 山崎 光恵	岩崎美枝子 山崎 光恵

保護司の異動

退任保護司
 平成27年5月31日 近藤 佳郎 (広瀬)

新任保護司
 平成27年6月1日 永島 均 (広瀬)

編集後記

本号から、編集会議をサポートセンターで行ないました。会議中に、インターネットで検索したり、関係機関と電話連絡やEメールでデータ受信ができるようになり、とても便利です。一頁の写真は、安来港の大岩に座す、語臣猪麻呂の毘売像です。昔、中海の波打ち際で、サメに襲われて命を落とした猪麻呂の毘売伝承は月の輪神事として語り継がれています。(編集子)